

令和 6 年 5 月 7 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K19526

研究課題名（和文）医療が複雑化する時代に看護師が果たすべき責任に関する理論の生成

研究課題名（英文）Generating a theory regarding the responsibilities that nurses should fulfill in an era where medical care is becoming more complex

研究代表者

杉山 祥子（SUGIYAMA, Shoko）

東北大学・医学系研究科・助教

研究者番号：00836174

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、看護師の実践に焦点を当て、看護師がどのように責任を果たそうとしているのか、そのプロセスを質的帰納的に明らかにすることを目的とした。本研究課題の成果より、看護師が責任を果たそうとするプロセスには、看護師は看護専門職としての特性を意識化する必要があり、実践により患者にとっての利益を届けるあるいは患者にとっての不利益を回避するという一連の内容が含まれていたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の成果は、看護師が責任を果たそうとしている現象を断片的ではなく、一連のプロセスとして捉え、彼らが患者にとっての利益を見出すあるいは不利益を回避するという新たな説明を加えたという学術的な意義がある。加えて、看護師は医療・看護の最終実施者として、患者の日常生活が妨げられないよう「関門機能」として、その行為を実施するか否かについて最終的な判断を下すという権限を行使しており、その行使した権限に対する義務を負おうとしていることを示唆した。

研究成果の概要（英文）：This research project focused on nurses' practice and aimed to qualitatively and inductively identify the process by which nurses fulfill their responsibilities. The results of this research project showed that the process by which nurses attempted to fulfill their responsibilities required that they become aware of their characteristics as nursing professionals. In addition, it was clear that the nurses' practice included a series of contents to deliver benefits to patients or avoid disadvantages for patients.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護師 責任 高度な実践

### 1. 研究開始当初の背景

高齢化の進展や医療の複雑化が進む中で、看護師には質の高いかつ安全な医療・看護を提供することが期待されている。看護師には、高度急性期から在宅医療・介護の一連のシステムにおいて、より高度な医行為を含めた看護を自律的に実施する中心的な役割が期待されている。看護師が患者の抱えている問題に対して、看護の知識を適用し自律的に看護を実践しているならば、その実践における責任は看護師が負うはずである。しかし看護師の実践は、診療の補助は医師がその必要性を判断し医師の指示の下に看護師が最終的に実施し、療養上の世話は看護師の自律的な判断で実施するという複雑な性質を有している。したがって、看護師の実践は、医師の裁量と看護師の裁量とが混在しているため、その行為における看護師が果たすべき責任の範囲が捉えにくい可能性がある。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、看護師が果たすべき責任を明らかにし、看護師の責任に関する理論を生成することである。具体的には、看護師が看護実践している場面の参加観察および当該看護師への面接調査を実施し、GTA を用いて看護師が果たすべき責任を帰納的に明らかにする。

### 3. 研究の方法

看護師が実践している環境は、同僚や患者、複数の他職種との社会的相互作用があり、その職務内容から責任感や専門職としての自覚を求められている。従って本研究では、社会的相互作用性とプロセス性のある事象を分析することに適している M-GTA を方法論として用いた。

本研究の対象者は、病院あるいは診療所に勤務する大学院教育を修了した看護師とした。看護師の実践は、流動的であり状況に依存する性質がある。そのような状況において、看護師が責任を常に意識しているとは限らないと考えられること、捉えようとしている現象が不明確かつ複雑な内容であることが想定された。そのため、本研究の対象者には、高度な知識を有し、看護の内容を意識的に考えながら実践していることに加えて、自身の実践を言語化できる能力が必要であると考えられたからだ。データ収集は、半構成的面接法で実施した。面接は一人につき一回、プラバシーが確保できる個室を使用し、一対一で行った。面接の内容を録音し、逐語録としてデータを収集した。面接では、研究参加者が実践において責任を果たそうとした場面やその経験を語ってもらい、その経験をどのように捉えたのか、なぜそのように考えたのかなど詳細に語ってもらった。

M-GTA の方法論に基づき、分析焦点者を「臨床で高度な実践をしている看護師」とし、分析テーマを「看護師はどのように実践の責任を果たそうとしているのか」と設定し分析を行った。収集したデータ間で継続的な比較を行い、概念を生成した。生成した概念間の関係性を検討し、カテゴリーを生成した。分析テーマに照らして看護師が実践の責任を果たそうとする動きを説明する構成になっているか検討を重ねた。データ間、概念間ならびにカテゴリー間の関係性を検討し、データからの解釈に過不足がないことを確認した上で、理論的に飽和したと判断した。なお、本研究は、研究者の所属施設の倫理審査機関の承認を得て行った。

### 4. 研究成果

本研究では、15 名の看護師から研究参加への同意が得られた。研究参加者の平均看護師経験年数は、20.4 年だった。

看護師が実践の責任を果たそうとするプロセスは、5 つのカテゴリーから生成された(以下、カテゴリーを【 】で記す)。本研究の結果から、看護師は患者に応答する立場として【看護専門職として具備する特性】を有する必要があると考えていた。看護師は【看護専門職として具備する特性】を前提とし、【患者の情報にアクセスする権利の行使】によって、実践に必要な患者の情報を収集していた。看護師が【看護専門職として具備する特性】を持ち、【患者の情報にアクセスする権利の行使】をするプロセスにおいて、【看護師の考えを言語化し伝える力の発揮】は、看護師が患者へ看護を提供する際に、専門職としての考えや意見を同僚や医師に伝えることを促していた。看護師は【患者の情報にアクセスする権利の行使】によって収集した患者の情報を実践に反映し、患者が日常生活を維持できるよう【生活者としての患者の尊重】をしていた。そして、看護師は実践によって、患者に利益を届ける、すなわち患者がより良い状態になるという目的を達成できるよう【患者に利益を届けるための関門機能】として責任を果たそうと考えていた様相を示した。

看護師の責任には、看護専門職としての備えるべき特性、看護実践における役割があり、患者にとっての利益を届けるあるいは患者にとっての不利益を回避するという一連の内容が含まれ

ていたことが明らかになった。看護師は、実践に必要な患者の情報を収集し、治療によって患者の日常生活が妨げられないよう【患者に利益を届ける関門機能】として看護師の権限を行使し、その行使した権限に対する義務を負おうとしていることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 杉山祥子、朝倉京子、高田望	4. 巻 32
2. 論文標題 看護師が責任を果たそうとするプロセス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 111-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18918/jshms.32.2_111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiyama Shoko, Asakura Kyoko, Takada Nozomu	4. 巻 19
2. 論文標題 Japanese nurse practitioners' legal liability ambiguity regarding their medical practice: a qualitative study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Nursing	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12912-020-00458-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 杉山祥子、朝倉京子
2. 発表標題 看護師が実践の責任を果たそうとするプロセス
3. 学会等名 第46回日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sugiyama S, Asakura K, Takada N
2. 発表標題 Japanese Nurse Practitioners' Awareness of Legal Liability in Medical Practices
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 S.Sugiyama, K.Asakura, N.Takada, M.Yamada
2. 発表標題 Nursing practices in patient recovery issues resolution
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------